〈学校目標〉未来を切り拓く確かな学力、豊かな人間性、健康・体力を育み、郷土愛を醸成する

切磋琢磨

久米島町立
久米島西中学校
学校だより

http://www.kumenishi-c.ed.jp/

第18号　令和3年9月13日

校内意見発表会 Zoom開催

Zoom 開催の校内意見発表会。社会問題を捉えながら、各自の意見を堂々と述べています。社会の一員としての意識が着実に育っています。これからの半年間、更に成長することでしょう。実に頼もしい限りです。

生きるということ

３年１組　安里望音

みなさんはどういう人生にしたいとか、どのような生き方が幸せか考えたことがありますか？自分の人生の生き方は自分で決めると思います。ですがそうでない人もいます。自分の人生の幸せを他人によってこわされたり、さらには、自ら命を絶つ人もいます。私はこのような事が絶対にあってはいけないと思います。

この世には色々な性格や価値観を持った人が存在しています。障がいのある人がいたり、性別や国籍、肌の色など一人一人違った人がいます。それに対し、偏見を言ったり差別をしたりして人を傷つけている人もいます。

差別などでは黒人や白人など肌に対するものがあります。みなさんもテレビやニュースなどで何かしらで見たり聞いたりしたことがあるでしょう。NHK テレビで、アメリカで「黒人男性が警察官に撃たれ死亡し、各地で抗議活動も」というニュースを見たことがあります。現地では人種差別による過剰な対応だとして住民らが警察に抗議し、抗議活動はニューヨークなどの大都市でも予定されていて、今後各地に広がる可能性もあるそうです。私が思ったことは、「肌の色がこうだから特別なことがある」など、そんなことはないし、「肌の色がこうだから悪い」という事もないということです。私はペールオレンジの色を「肌色」と言っていました。ですが、この言葉は差別用語だと知り、使うのをやめました。他にも「女性の方が家事や育児にむいている」ということや、「男性は働いて家庭を支える人は多いとき」といった固定概念を持っている人は多いとも思います。男性でも家事や育児が得意な人もいれば、好きな人もいるし、女性でも働いて家庭を支えている人も多くいると思います。

LGBT 差別では、「男、または女のくせに」、「同性愛者は気持ち悪い」といった侮辱的な言葉をぶつける人がいるそうです。ですが世界には差別をする人だけがいるわけではないです。あるユーチューバーの動画で、日本人が海外でのアジア人差別についてインタビューをする動画がありました。そのインタビューで海外の方が言ってくれた事は、「誰でも受け入れて、みんなが平等に幸せに生きるべきだ」と言う人がいたり、「日本人も含めアジア人が好き」という人や、「どこに行くにしても気をつけて、みんなが良い時間を過ごせたらいいと思うよ」という人もいました。このように、同じ人間でそれぞれを尊重するべきだと考える人も多くいます。

いじめは、小・中・高で年々増加傾向にあります。去年は過去最多、全国で６１万件以上のいじめがあったそうです。いじめによる自殺の件数も年々増加傾向にあり、去年は３００人以上の人が自ら命を絶ったそうです。最近では周りの大人が気づきにくい SNS 等でのいじめが多く、いじめは社会の大きな問題のと言っています。人間は生まれながら誰でも基本的人権を持っています。人間が人間として当然に持っている基本的な権利で、人間が生まれながらにして自由、平等である権利です。このように、生まれながらにして権利があるのに、偏見や差別が増え、いじめが絶えず、自ら命を絶ったりと、他人に自分の人生を左右されるのは本当に良くないと思います。

自分にできる事は、色々な価値観や障がいの有無、人種などの人がいる事を認め、そのの人たちを尊重する事です。私は、差別をしたり、人の事を悪く言ったりしている人を注意できるような人になりたいです。

多様な社会を作るために

３年１組　内間莉麗

「差別」この単語を聞いて、皆さんは何を想像しましたか。私はあるニュースを思い出しました。２０２０年にアメリカで起きた、警察官による黒人男性射殺事件です。この事件をきっかけに、世界的に黒人への差別を反対する運動として BML 運動が巻き起こりました。また最近では、アジア人に対する差別がエスカレートしており、実際にアジア系の人々が暴力を受ける事件などが世界中で発生しています。これは、私たちに関係のない話ではなく、「人種差別」は私たちの身近なところでも起こっているのです。

私には、中国人の母がいます。そのことについて、過去に差別的な発言を受けたことがあります。普段の学校生活で、「おい、中国人」と急に呼ばれたり，声を大きくして話すと、「さすが中国人」などと言われる事が何度もありました。冗談だと分かっていても、こういう言葉には傷つくし、同時に、家族も侮辱されているようで怒りを覚えます。なぜこんなことを言われないといけないんだろう。親が中国人だから？私が純日本人だったら言われないで済んだのだろうか。家でもこんなことを考え、母を避けていた時期もありました。「日本人のお母さんが良かった」思わずそう言ってしまったことを、今でも後悔しています。

このような経験を踏まえて、私なりになぜ差別は起こるのかを考えてみました。

私は、相手への無理解や無知が、偏見を形成し、それが他者に振りかざされることで差別という形で顕在化するのだと思います。相手を知ろうとしないことで、人は偏った意見をもってしまうことがあります。人種差別などは特にそうです。あやふやな知識だけで正確や言動までも決めつけ、馬鹿にする，とい

ったことが世界中でまだ起こり続けています。
人は誰でも「自分は必要な人間である」と思いたがっています。それを私たちは「自尊心」と呼んでいます。その自尊心が自分の敗などで傷つけられると、人は傷を埋めるものを欲します。そんな時に、自分よりもの、劣っているものを探し、誹謗中傷を浴びせては優越感に浸る人もいます。昔から、そのの格好の餌食にされてきたのが、女性や障がい者です。時代が進むにつれ、今では差別がに対する問題意識が高まり、女性や障がいにに対する差別は昔に比べて確かに減っています。しかしそれは表面上だけのことで、今でも「ステレオタイプ」として根強く残っています。「女性の方が家事が得意なイメージ」「障がい者は変わっているイメージ」。このような皆さんの中に知らず知らずに根付いたイメージが、私たち自身の首を絞めているのです。このステレオタイプをなくしていくためには、まず全ての人を対等に見ることが必要だと私はは思います。それを前提に、１人１人がぞれぞれと相手との違いを知り、認める。それぞれの個性を受け入れ、尊重する。もし差別的な発言をする人に出会ったら、はっきりと注意をする。私たちにできる事はたくさんあります。差別をなくすことは決して簡単なことではありませんが、私は自分のような思いをする人がいて欲しくありません。皆さんの小さな行動の積み重ねが、差別のない世界を作る第１歩になるのだと私は思います。

沖縄県吹奏楽コンクールを終えて

中学校最後のコンクールは、最高の形で終わることができました。今回は、１・２年生のための本番だったので、緊張する練習のために発表会を３回しました。１回目の始業式での発表は、曲がろくに全て仕上がっていなかったため、できること出たっての課題を２度目、３度目でどんどん改善して臨んだ本番は、今までで１番良い出来でとても満足でした。私たち３年生は、１・２年生が卒業まで時々顔を出したりして、１・２年生の成長を見守っていけたらと思います。また、しっかり後輩に引き継ぐのも先輩の役目だと思うので、残り少ない活動期間中で、後輩たちはたくさんのことを教えていきたいです。　３年　新垣ひいろ

私は、今回のコンクールで練習の時よりもとても良い音が出ていて、とても嬉しかったです。また、最後の年で、このような演奏を行うことができて、悔いの無いコンクールになりました。２学期以降は部活はあまり行かなくなると思いますが、勉強も頑張り、たまには部活動にも顔を出せると良いなと思います。３年　吉濱瑠華

吹奏楽コンクールを終えて、私はミスせずに最後まで演奏が出来て良かったです。後、２学期にやりたいことは、自分の好きな曲を皆で演奏してみたいです。　３年　仲地真桜

吹奏楽コンクールは、先生方や生徒の前で演奏していた時に比べて、緊張しなくてリラックスして練習の時のようにできたと思うので嬉しかったです。また、他の学校の演奏が自分の音と違っていて、もっと頑張ろうと思いました。なので、もっと練習していきたいです。
２年　山城佳音

吹奏楽コンクールでは、緊張していて１部の高い音だけ吹けなくて、そこを後悔していました。でも、練習の時と比べたら、けっこう吹けて、全体的に音も綺麗だったので嬉しかったです。２学期では、２学期は、出来たら先生方にも音を聴かせたいです。　１年　糸数優

本番では、緊張して最初の音が弱くなったけど、１人１人が他の人の音を聴いて、伸び伸びと演奏できて良かったです。また、皆の音が初めて１つになって本格的な音楽という感じが感動したし、皆で協力して頑張れた演奏も深められて楽しかったです。２学期以降は、校歌や香水など色々な曲にチャレンジしたり、他の楽器も吹いてみたいです。１年　渡慶次愛加

私は、今回助っ人としてコンクールに参加しました。日々練習に励み、本番では悔いなく演奏することができました。部活動に所属していない私にとって、とても貴重な経験になったので、この経験をこれからの生活に生かしていきたいです。　３年　又吉乃亜

吹奏楽コンクールで、私は臨時に参加したけど、本番でミス無く敲く事ができたので良かったです。体育館の時は、全然上手く出来なかったけど、本番までの短い時間で上手くなれたのでとても嬉しいです。　３年　大城蕉真

9月の校長講話

今回は、３つの内容を話しました。始めに、「敬老の日」は、長年に渡り社会に尽くして来られた老人を敬愛し、長寿を祝う日であること。そして、認知症サポーターについてです。２つ目は、「秋分の日」と学校生活の折り返し地点となる９月に、半年を振り返りつつ「未来は、現在と同じ材料でできている」という言葉について考えて欲しいということ。最後は、「読書の秋」に、心が震えるような一冊に出会って欲しいということ。「カズオ・イシグロ」さんを紹介しました。コロナ禍で厳しい時間が過ぎていきますが、読書を通して、様々な知恵を獲得して欲しいと思います。４月より逞しく成長した皆さんを誇りに思います。「感謝」の気持ちを大事に「自律(立)」した自分を鍛え「社会貢献」できる人になって下さい。楽しみですね。